

完全嵌合式新型折板「JFEフットロック600」を販売開始

JFE鋼板株式会社は、このたび、JFE折板ロックシリーズの新商品として、施工性を大幅に改善した完全嵌合式折板「JFEフットロック600」を商品化し、大手需要家である株式会社マツハイヤ殿に第1号成形機を設置して販売を開始致しました（屋根30分耐火認定番号取得済み）。

現在、非住宅建築に使用される折板は嵌合式と異なる「重ね式」および「はぜ式」と呼ばれるタイプが主流ですが、建設現場での折板屋根本体とタイトフレーム（屋根取付金物）および折板同士の接合は、前者はボルト・ナットを用いた締め付け、後者は「シーマー」と呼ばれる専用機械を用いたはぜ締めを行っていました。

JFEフットロック600は、JFE折板ロックシリーズの特長である「完全嵌合式」のボルトレス折板で、新たに開発した嵌合部形状により、屋根本体を踏み込むだけで嵌合部がロックする簡単・確実な接合を可能としました。その結果、屋根工事の熟練度を問わず安定した施工品質が得られます。またボルト・ナット締めおよびはぜ締めに全く必要としないことから、「重ね式」および「はぜ式」に比べ施工工程数が削減され、施工負荷の減少を実現できる画期的な製品です。製品形状においても製品働き幅は600mmであるため、通常の500mmに比べ確実に施工スピードが向上します。弊社のはぜ式との施工時間比較におきましては、20%程度の時間短縮が見込まれます。強度については動風圧試験により、十分な耐風圧性能を有していることを確認しています。

さらに、JFEフットロック600では、現場施工において通常必要なボルトやシーマーによる締め付け作業が不要なことから、「重ね式」のボルトの錆や漏水、「はぜ式」のシーマーによる鋼板表面への傷・ダメージを発生させる心配もなく、健全な表面状況を保持することが可能です。

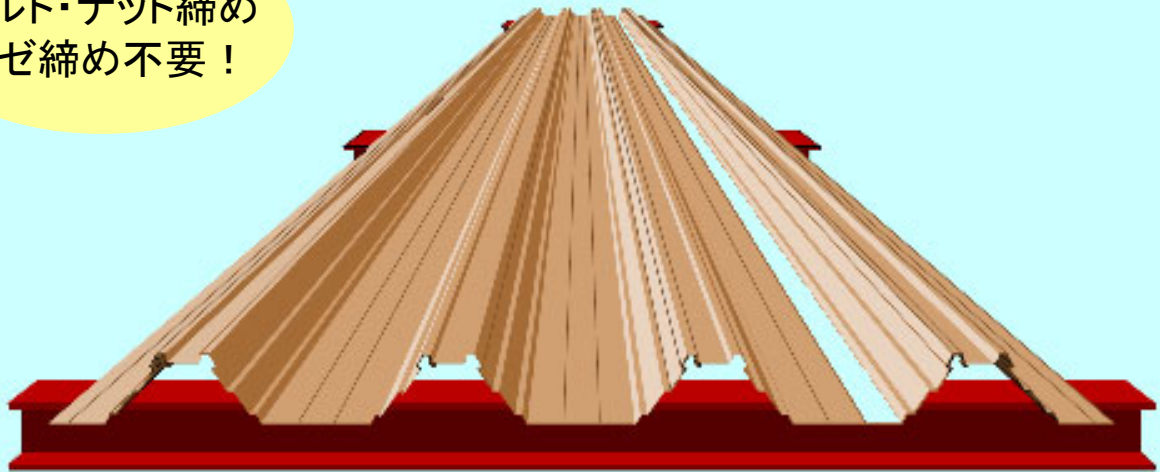
同様の特長を持つJFE折板ロックシリーズの「JFERーフロック50」「JFERーフロック75」はこれまで多数の実績がありますが、両製品とも山高が50mm、75mmと低く、屋根下地材の間隔(母屋ピッチ)が比較的小さい住宅系を中心とした中小規模建築物を対象としていました。JFEフットロック600は山高を157mmと高くし、従来のJFE折板ロックシリーズでは対応できなかった大規模建築物にも適用可能とした製品です。

JFE鋼板株式会社は、先に販売開始した強風による耐剥がれ性に大きな特長を持つ「タイトロック500」と施工性向上に特長を持つ「JFEフットロック600」を主軸とし、今後全国に「JFE折板ロックシリーズ」を展開し、早期に1,000t/年の販売を目指していきます。現在、「JFEフットロック600」2号機の引合いも頂いております。

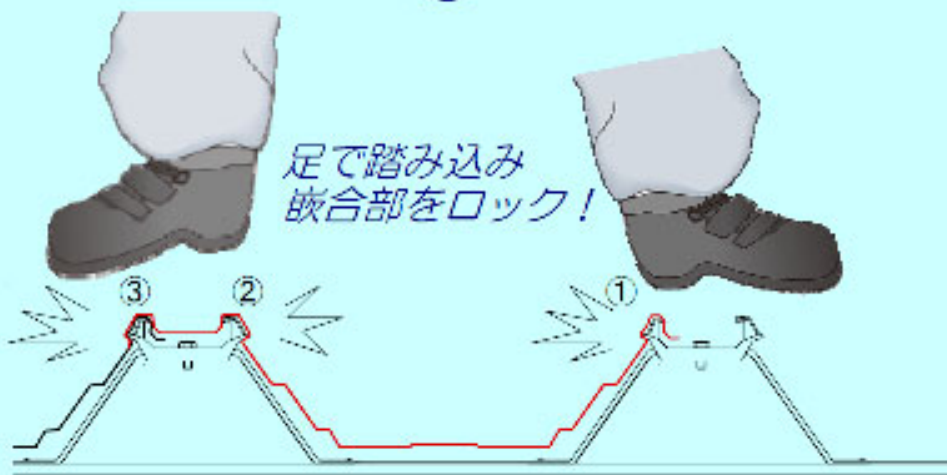
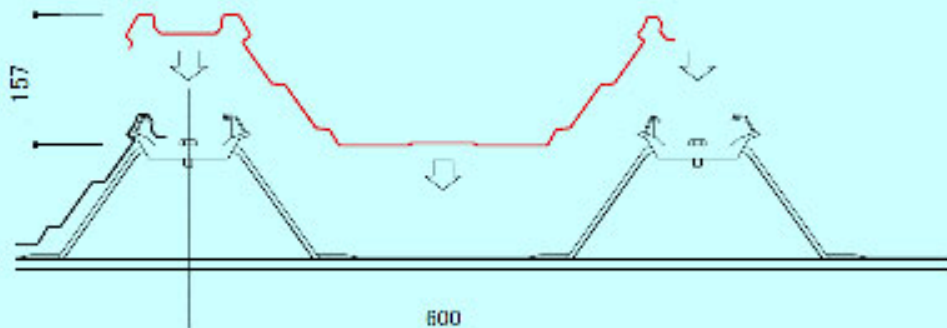
本件に対するお問合せは、下記にお願いします。
JFE 鋼板株式会社 商品技術部 建材技術室 武田、楠岡
TEL 03 (5255) 9532

「JFEフットロック600」

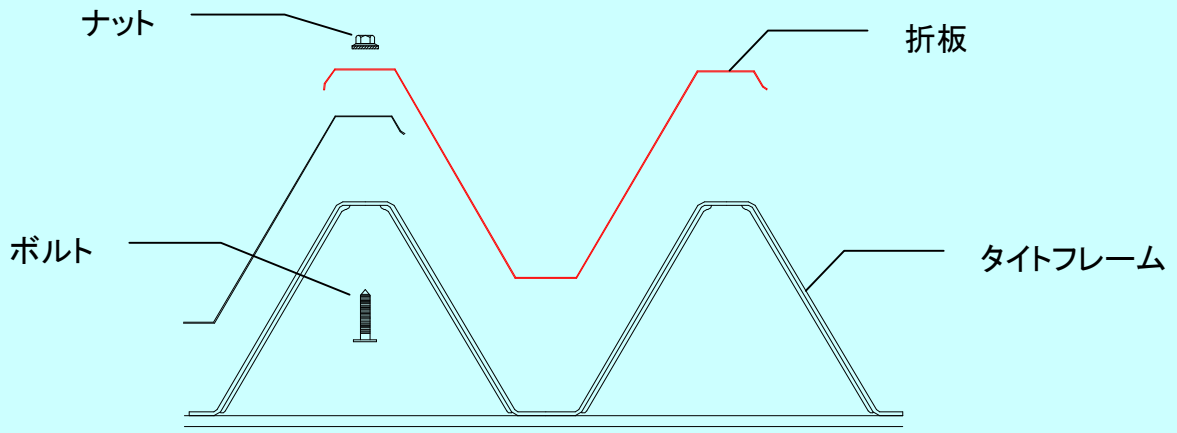
ボルト・ナット締め
ハゼ締め不要！



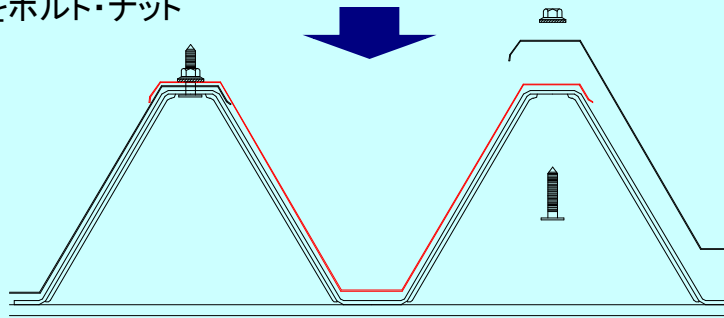
折板を所定の位置に落とし込む



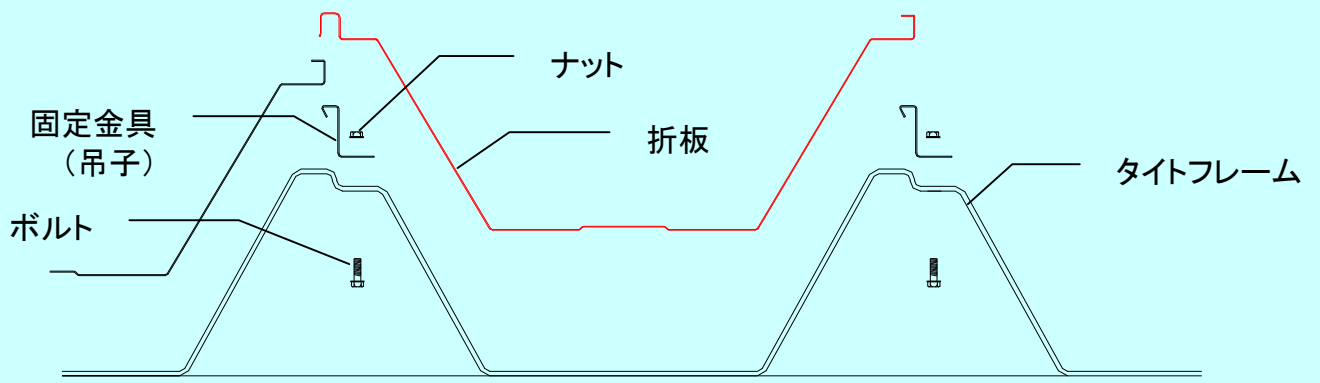
①～③順に踏み込む！



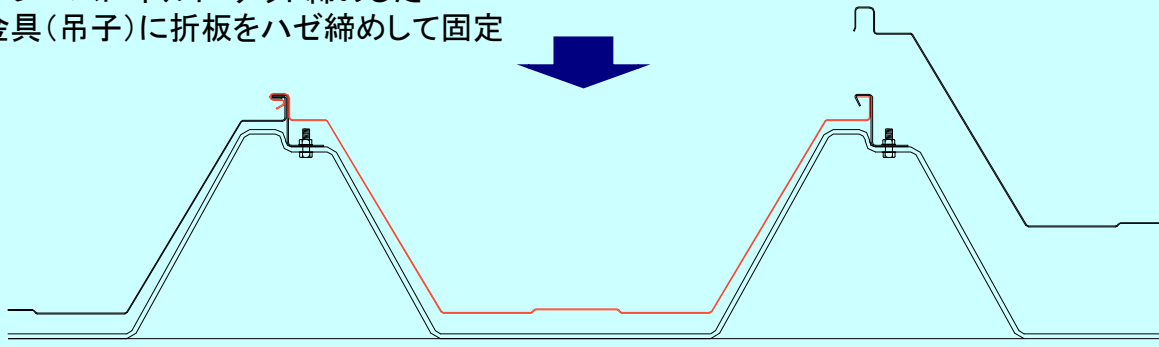
タイトフレームに折板をボルト・ナット
締めして固定



「重ね式」折板



タイトフレームにボルト・ナット締めした
固定金具(吊子)に折板をはぜ締めして固定



「はぜ式」折板